
このこのこ！～男の娘のこんな日常～

トミー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

このこのこ！〜男の娘のこんな日常〜

【Nコード】

N7675Z

【作者名】

トミ一

【あらすじ】

私立天翔学園高等学校 この学校に入学したのは、どこにでもいるような男の娘！？

エピソード（前書き）

不定期更新になりますが。よろしくお願い致します。それじゃあ主人公のアカリちゃんヨロシク。

「僕の名前は、アカリじゃないです。えーっと、このセリフ読めばいいですね。こほん、青春に必要なのは「友情」「ラブコメ」「男の娘」・・・って僕は男の娘じゃないーい！！

エピソード

「月アカリさん好きですっっ！！付き合ってくださいっっ！！」

2011年 春 4月も終わりに近づき今年僕は、必死の受験勉強の結果無事合格した「私立天翔学園高等学校」の体育館裏に呼び出されて今まさに告白された。

「無理です。」それを僕はソッコーで断る。 「…………えっ？」

「それじゃあまた明日。」

僕は今告白断った田中太郎君（多分）の横を通り過ぎようとして「ちよっちよっ」と待つてください！」「田中太郎君（多分）に道を塞がれた。

「どっどうしてですか！？せめて理由いやっ少しでいいから考えてくれます」「無理です。本当に。」「僕は、さっき告白を断ったときより早く返事をする。」

「だからなんでっ」「落ち着いて、別にぼくは田中君のことを嫌ってないし嫌悪感すら持ってないよ。逆に友達になりましたよっって言われたら嬉しいぐらいだし。」「じゃあ友達以上にみえないってこと？後、田中じゃなくて田代です。」「と田中君じゃなくて、ええっ」と田代君だ。は冷静にツツコミをいれながら聞き返してきた。

「いや・・・その・・・なんとというか・・・その」実は僕、この手の告白は中学生時代からなれている。しかし、理由の説明だけはどうしてもなれない。むしろ、ある意味なれたくない。

「いつ言わなくちゃダメかな？」むしろ、言いたくない。

「はいっ」田代君はきっぱり返事をした。

「僕はきちんと明確な理由で月さんを好きになりました。例えば・
・」田代君は頼んでもいないのに、僕の好きな理由をきちんと説明
していった。・・・はあ百パーセント理由行った後の傷口広くなる
よなああますます言いたくないあ。

「例えば、月さんの透き通るようなソプラノ声は誰の心にも染み込
んで心地よくて、」

「・・・いやいや僕にとってそれコンプレックスの1つなんだけど。」

「そして月さんの髪は、まるで芸術品のようにサラサラで、」
あっ今のは少し嬉しかったな、高いリンスにはちみっ入れた特性リ
ンス使ってるからね。これが結構髪にいいんだよね。

「もちろん外見だけじゃないです。」
まだ、あるのかあ。

「この前の調理実習のときに作ってくれた。あの炒め物すんごくお
いしかったです・・・。」
いやっあれは結構手抜き料理なんだけど。

「そして、このまえ僕の制服のボタンがとれた時のあの裁縫の腕前。
はつきり言っつてプロ級です。」
裁縫にプロ級とかあるのかなあ？

「他にも・・・。」うん、分かった。分かったからもうやめて。「や
ばい、本当にいい図らなくなった。

「それじゃあ、お願いします。きちんとした理由を説明してくださ
い。」
「・・・言いたくねー」

「っっっっっっっっっっっっっっっっ!!」

もう、嫌だ逃げ出したい。てゆうかそんなに僕のこと見てるなら理由にきずけよっ！別にその理由隠してないし、なんで逆にきずかないの！！？もおー！ー！本当に。これはもう腹をくくるしか無いのか！！

「月さん、お願いします。振られるのは仕方ないけれど、理由もなしに振られるのは嫌です。」田代君は、追い打ちをかけるように迫ってきた。いや、だからさ理由聞いて傷つくレベルがもう核爆弾並みなんだよ経験から。

「う、あ、その、あの、いや、」「月さん！」「……もう無理、この状況もう無理。」

僕は腹をくくった。

「田代君。」「はい。」「……僕苗字月じゃないし、名前もアカリじゃないんだけど。」「……えっ?」「……」
僕の苗字が月明狩なんだ。「

「……すつすいません、いつ今までできずかなくて。」田代君が慌ててあやまる。逆に謝りたいのこっちなんだけど。

「いやっ、いいよ。よく間違われるし。」本当に。「そうなんですか?」「そつそれで、本当の名前が、その、えつと。り、っ、っつて言うんだけど。」「えっ?すいません聞こえませんでした。」
「……りゅ、っ」「えっ?」「……りゅ、っ」「……りゅ、っ」「……りゅ、っ」
「はいつ?」「ぼつ僕の本名は、つきあかり月明狩 りゅ、っ竜人」「……りゅ、っ」
田代君はようやく気がついてくれた。

そう、僕、つきあかり月明狩
りゅうと竜人が

男だということに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7675z/>

このこのこ！～男の娘のこんな日常～

2011年12月25日01時51分発行